



# 酷暑に打ち克つ



暑さに負けない“強さ”を引き出す

どんな作物にも使えます※水稻もオススメ



## 酷暑対策に。ヒートインパクト

### ヒートインパクトの使用ポイント！

ヒートストレスが出る前の散布がオススメ！  
10～14日間隔の複数回散布も効果的！

散布時期・使用量 100mℓ/10a

- 【麦類・豆類】 4葉期前後～子実肥大期
- 【果菜類・葉菜類】 本葉展開後～収穫前
- 【根菜類】 本葉展開後～根部肥大期
- 【果樹類】 展葉期～果実肥大期
- 【花卉類】 定植～収穫前



空中散布  
(8倍希釈)

葉面散布  
(1000倍希釈)

対象作物

水稻・大豆・麦類  
大型露地野菜・果樹など

主な成分

海藻抽出物 アミノ酸  
微生物代謝物

肥料としての有効成分

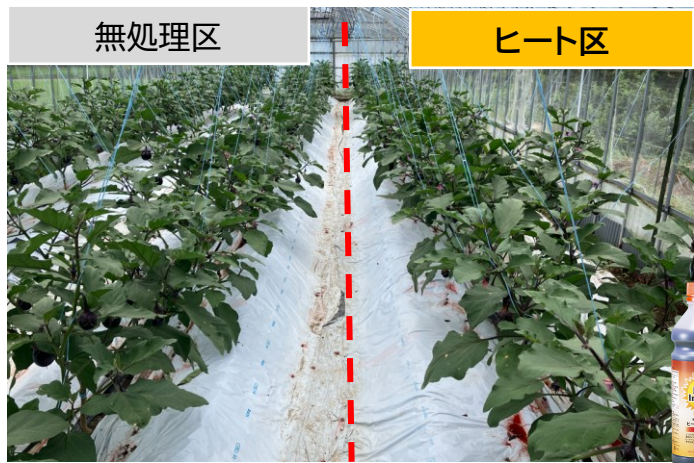
窒素全量3.8%  
内アンモニア性窒素1.7%  
※特殊肥料等入り指定混合肥料

注意：混用時には、事前に少量混ぜて沈殿や濁りが出ないか確認してください。



## 01 ミズナス 試験事例

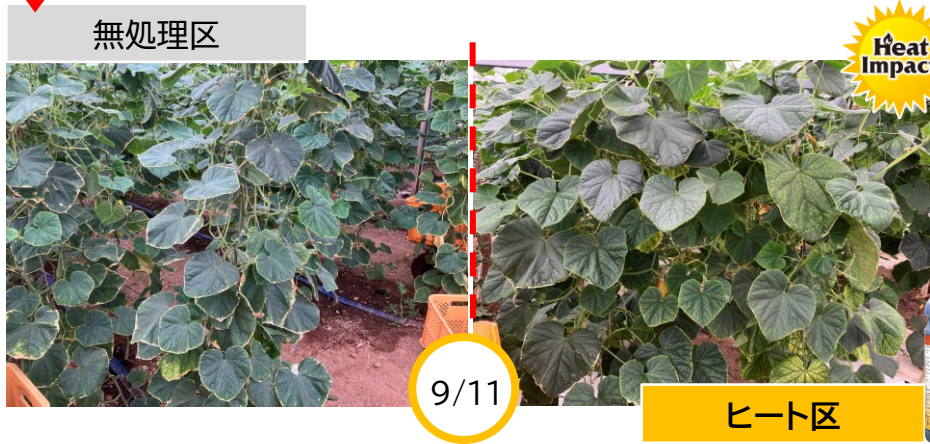
- 大阪府岸和田市
- 定植日:5/3
- 散布日:100ml/10a(希釈倍率1000倍)
  - 1回目:7/11
  - 2回目:7/13 葉面散布



**考察** ヒート区の果実は**光沢(つや)があり**、高温ストレスを軽減できた結果と推察する  
 (注)つや無し障害:土壌水分不足、高昼夜温が原因

## 02 キュウリ 試験事例(品種:マリン)

- 長崎県川棚町
- 定植日:7/8(無処理区)、7/15(ヒート区)
- 散布日:100ml/10a
  - 1回目:8/20
  - 2回目:9/4 2回散布



**考察**

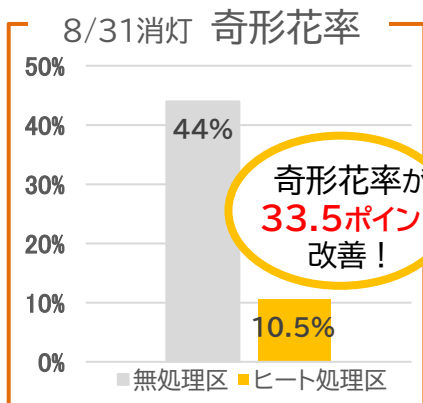
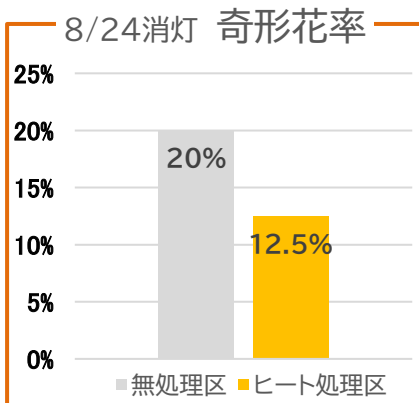
ヒート処理区は葉面積が大きく、葉の黄化や葉先枯れの症状が軽減されていた。  
 ヒートインパクト散布で、**光合成能力維持、水分保持能力が高まった結果と推察**

## 03 夏秋輪ギク 試験事例

ねらい:10月出しにおいて、資材による**高温抑制効果を検討**する。

【処理方法】1000倍・5ml 【処理時期】消灯2週間前 消灯時 消灯2週間後

- 鹿児島県枕崎市
- 輪ギク(精の一世)
- 処理方法:1000倍・5ml/株
- 処理時期:消灯2週間前、消灯時、消灯2週間後



ヒートインパクト処理区は**奇形花率が減った**

※奇形花:花芽分化期・花序伸長期の温度・光環境の不安定で生じる

**考察**

開花は、ヒートインパクト区が無処理区に比べ早かった

